

未来をつくる ソーシャルイノベーション

文・西村勇哉



MIRA TUKU

CASE:

22

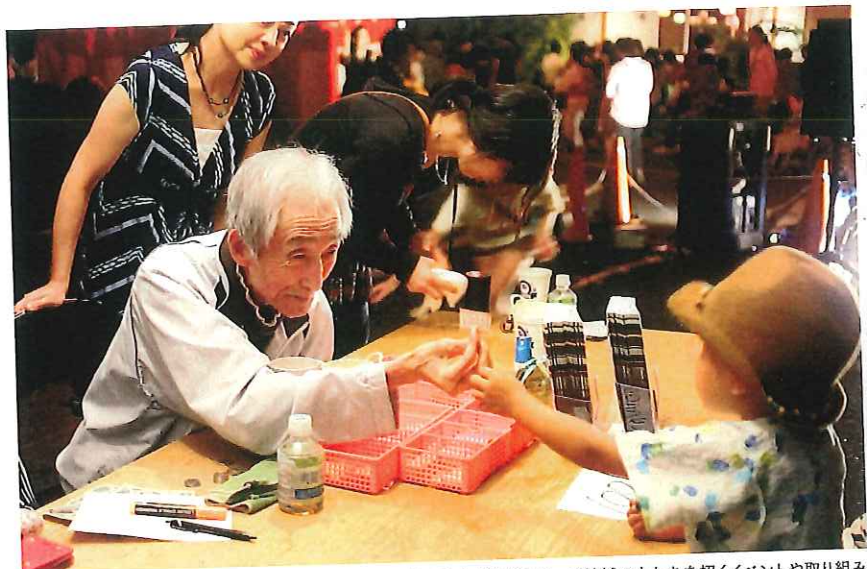
銀木屋



『銀木屋』の駄菓子屋は、高齢者の住民が自ら「やりたい」という話をしたことからスタートし、住民が売り手を担っている。

POINT!

業界の常識や善意の常識を超えて一歩踏み込んで本人の意思を尊重することで、担い手と受け手という関係から共創の関係へと転換する。



『銀木屋』では地域とのつながりを活かし、高齢者の住民たちが中心となって地域の人たちを招くイベントや取り組みを数多く行っている。http://ginmokusei.net

今回は、株式会社「シルバークラウド」が展開するサービス付き高齢者住宅「銀木屋」の取り組みから、ソーシャルイノベーションのポイントを紹介します。サービス付き高齢者住宅は、2011年の高齢者住まい法の改正によって始まった、介護職員などが日中常駐するソフト面と、バリアフリーなどのハード面を備える住居です。一人暮らしの高齢者の数は、2020年には667万人になると推計されています。『銀木屋』では、一般的なサービス付き高齢者住宅の枠を超えて、温もりのあるインテリアや、高齢者の住民が自ら行う駄菓子屋、地域の子どもたちを招いた秘密基地探検、地域住民を招いたお祭りなど、地域の暮らしと住居がつながる状況を生み出してきました。また、近年ではバーチャルリアリティ(VR)の技術を活用し、認知症の状況が疑似体験できるVR認知症プロジェクトも展開しています。

『シルバークラウド』代表取締役社長の下河原忠道さんに「事業を運営する中で、ある種当たり前のことを実行する際に壁となったものは何でしたか?」と伺ったところ、「人を閉じ込めない、縛り付けたいといった『当たり前の感覚』を持ち続けることが難しい業界だと思っています。また、家族が壁となるケースもまれにあります。そして、壁となるものは常に自分の中にあります。例えば看取りにおいて、本人は過

度な医療は施さずこのまま『銀木屋』で……といった希望があるにもかかわらず、家族が病院への入院を希望するケースがあります。しかし、最終的に本人の意志を貫く形で亡くなってしまうとほとんどの家族の方が満足されません」と返ってきました。

管理することやルールで縛ることは、運営側にとって強制力を用いることができます。一見楽な状況になります。また、世話をすることや代わりにやってあげること、受け手にとって楽になりやすいことのように感じます。一方で、それらは受け手の依存を生み、少し長い目で見ると何もかもをやらせないといけない高負担な状況になってしまいます。『銀木屋』では、常に本人の立場に身を置き、本人の自発性を一歩踏み込んで尊重してきました。結果、質の高い暮らしを起点に住民が自発的に取り組み、また地域とのつながりを活かした協働が生まれるといった好循環になり、さらに質の高い暮らしを実現しています。



にしむら・ゆうや ●大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。Emerging Future, we already have (既に在る未来の可能性を実現する)をテーマに、社会起業家、企業、NPO、行政、大学など異なる立場の人たちが加わる、セクターを超えたソーシャルイノベーションのプラットフォームづくりと企業と共に行うソーシャルイノベーションを組み込んだ事業開発に取り組む。NPO法人ミラツク代表理事。http://emerging-future.org

ソーシャル&エコ・マガジン まちに広がる「本」のいま。本と、本がつくる場所の大特集!

マドコト

No.210

823Y

特集

本と、本がつくる場所

All About Books

注目の
本がつくる場所
を掲載!

葉日・BOOKS f3・暁・誠光社
只本屋・yukariRo
ペンギン文庫・本と温泉
全国「本がつくる場所ガイド」

別冊付録:マドコト



「窓からはじめる健康生活」